

記念講演 I

成長志向の企業文化を育む： 三菱ケミカルグループの改革

ジョンマーク・ギルソン

三菱ケミカルグループ株式会社
代表執行役社長

目

1. はじめに
2. 客観的事実とデータ
3. 三菱ケミカルグループの現状を招いているのは

次

4. アクションと不作為
5. アクションを通じて成長志向の文化を再構築
6. 本日の要点

1. はじめに

私はベルギー生まれ、ベルギー育ちで、その後、米国に移った。35年のキャリアのうち40%が欧州、40%が米国、20%が日本で、日本で仕事するのは今回が2回目である。私はケミカルエンジニアであり、ケミカルカンパニーである当社で働けることは喜びである。

本日は、成長志向の企業文化をどのように育むかという話をしたい。テーマは、非常に良い会社ではあるものの事業の運営の仕方が保守的というケースにおいて、どうやって成長志向の企業文化を組み合わせて再び成長軌道に乗せるか、ということである。問いはシンプルだが、答えは非常に複雑である。なぜなら、これは人の文化、企業の文化、そしてそこに働く人たちの意識が関わる問題であるからである。

日本は、成功するために必要なものをすべて持っている。必要なものというのは、経済・社会面



とソフトパワー面の二つがある。経済・社会面では、日本は世界第3位の経済大国である。また、教育水準は世界第4位である。こうした日本の教育水準の高さは、これまで見落とされてきたのではないかと。また道路、インターネットなどのインフラは、世界の中で最高水準ではないかと思う。海外からみると、Made in Japanというラベルは最高の品質とサービスを示すものと考えられている。

ソフトパワー面では、まず治安の良さが挙げられる。日本はどこに行っても、きれいで安全であ